



ティー・ブレイク

NO. 81

二人三脚

一人暮らしの気楽さ，あるいは気ままさ，というのがあるが，他人に気を遣うのが煩わしいということで，単独経営の道を選んでおられる弁理士も多い。また，最近では，30代前半の男性の40%が独身であり，その理由のひとつとして，一人のほうが気楽だからということを挙げるという。

どうして不便を承知で「共同」経営をやるのか。それは，一人では，やれることについて自ずと限界があるからである。また，共同でやれば，相加効果のみならず，相乗効果まで得られるからである。共同作業の偉大さは，例えばビートルズひとつをとっても，彼ら4人が共同で成し遂げた偉業を，個々の場合には当のビートルズの構成員自身ですら超えることができなかったことから明らかである。

このコラムでも何回か共同経営のことに言及をしたが，それは，共同経営というものが，一般の方々が想像しているよりも遥かに難しく，安易な気持ちで「共同」をしたのでは，失敗をしてしまうからである。

ただ，こうした「難しい」共同経営も，あまり複雑に考えるものではなく，結局は，気が合って，一緒にやって行けそうな人を選ぶ，ということに尽きるらしく，逆に，世の中には共同経営等を成功させるためのハウツー本が色々出ているにしても，この部分が欠落していたのでは，何を施しても無駄なようである。

ところで，同じパテント編集委員のK会員が，この度ご結婚されるとのことである。結婚というのは，良好なパートナー選びという点で，共同経営とどこかと似ているようなところがある。折りしも，K会員は若くして既に独立されており，また，最近では事務所の共同化の必要性を切に感じられているという。こうした事務所の立ち上げの時には，何かと忙しく，かなりの程度で家庭を犠牲にしなければならないこともあるけれど，事務所が成長する過程においては，共同作業の大切さやその意義，有り難味を感じることも多く，こと「共同生活」ということについては，事務所の成長と自分の人間的成長とが二人三脚で足並みを揃えて行くようである。

「二兎を追うものは一兎も得ず」ということもあり，2つのことを同時に祈るのは良くないことであるというのは，それはそれでもっともな真理なのであるが，あえてお祈りしたい。K会員の事務所の将来とお二人の未来に，ともに幸あれと。

(正)